

【校長室の窓】 R 3 年 1 2 月

## 2021年を振り返って

川棚高等学校長 畑野 公昭

今年も歳末を迎えますが、12月24日、落ち着いた空気の中で終業式を迎えることができました。以下は、その際に生徒に向けて話した主な内容です。

2年越しのコロナウイルスは収束と流行を繰り返しつつ、現在、新たなオミクロン株を作り、なかなか落ち着かない状況にあります。昭和大学医学部の二木客員教授の講演によると、新たな株の出現がそれぞれの波と一致するそうなので、予断は許されない状況です。ただ、他国に比較して現在、日本の感染者数が抑えられているのは、私たちの感染防止対策の徹底の効果が挙げられるそうです。「ワクチンがすべてを解決するわけではない」という指摘を十分に踏まえ、特にこの冬に対応を緩めることなく、感染予防の取組を進め、全体的な収束が見えるまで、ともに頑張っていきたいものです。

さて、そんな中で、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、多くの日本人選手がメダルを獲得したり、大リーグで MVP を獲得した大谷選手、将棋界では若手の藤井聡太棋士、相撲界ではどん底からカムバックした照ノ富士関が大活躍を見せてくれたりするなど、多くの人々が勇気づけられる明るい話題もありました。日本漢字検定協会が選ぶ今年の漢字は「金」。いろいろな意味が合わせられているようですが、そんな輝かしい一面が、コロナや自由の抑圧化が進む混迷した国際情勢などの世相に、救いや希望をもたらしているかのようです。

本校での2021年を振り返ると、生徒会を中心に生徒全員の皆さんの創造と協力の賜物として、創立80周年記念のさまざまな行事を実施できたことが、輝かしい歴史の1ページを飾った「金」に当たります。「飛躍~小さなつみ重ねを大きな一歩へ」のキャッチフレーズ、インドでは守り神と崇められるクジャクをモチーフにしたロゴマークは、この1年のみならず、これから先も川棚高校を静かに見守り元気づけてくれたらと思っています。

2022年に入ると、また新たな川棚高校、次の10年の川棚高校を築いていく局面に入ります。今私が考えている一つは原点回帰。すなわち「自律・親愛・究理」の校訓に立ち戻って川高生の在り方を考えること。もう一つは、自分で立つ「自立」。自らの志を立て主体性を持って判断し行動する力をより高めていくことではないかと思っています。

概ね、上記のような話をしました。なお、創立80周年記念行事の様子は報道部写真班が撮影した多くの写真とともに「川高新聞201号」に掲載されていますので、ぜひご覧ください。2021年の川棚高校へのご支援に心から感謝するとともに、2022年もどうぞよろしく願いいたします。皆様が健康で、よい年を迎えられることを心から祈ります。